



Weekly Market Report

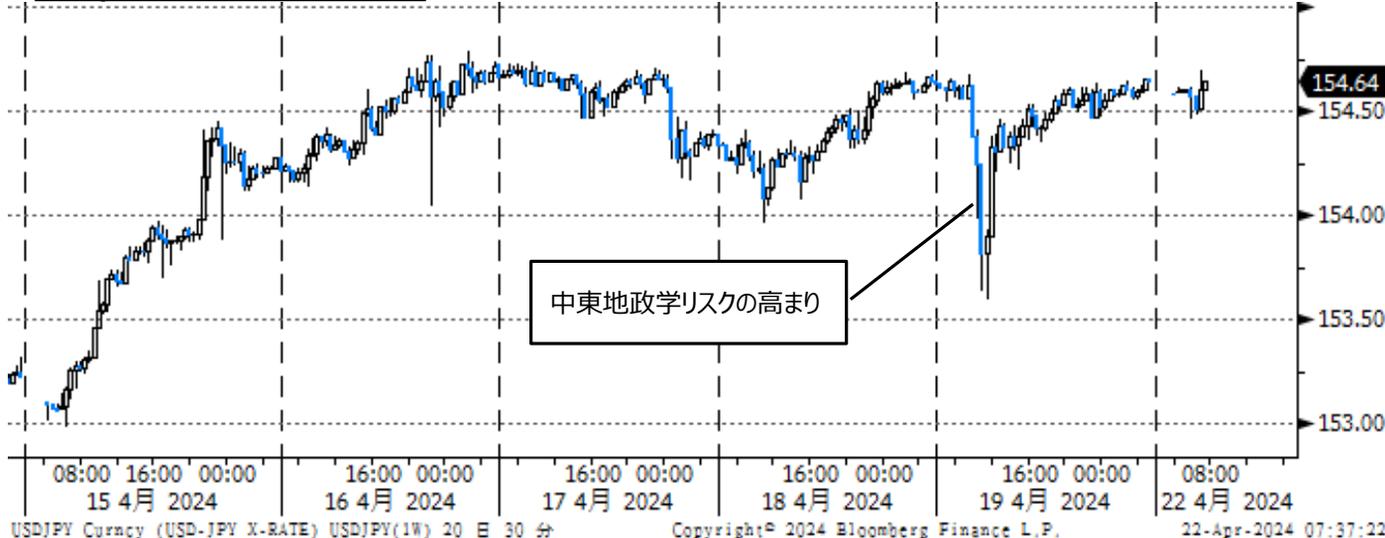
Apr 22, 2024

FX, JPY Interest Rate, Topics

1. 為替相場概況

先週のドル円は34年ぶりとなる154円台に突入。今週は日銀会合に要注目

USD/JPY (1週間の値動き)



コメント

(出所) Bloomberg

先週のドル円相場は円安ドル高が進行し、34年ぶりとなる154円台へ突入した。週明け153円台前半でスタートしたドル円は、月曜公表された米小売売上高が予想前月比+0.4%に対して+0.7%と非常に強い結果となり、週半ばにかけては154円台後半まで上昇。週末、中東情勢の緊迫化から一時153円台前半まで円買いが進む場面も見られたものの、東京時間終盤にかけては再び154円台を回復して越週した。今週は、金曜日の日銀会合にてどのような政策スタンスを示すかに要注目。円買い材料に限られる中、今回の日銀会合で少しでもハト派的と捉えられた場合はドル円はさらに上値を切り上げる可能性もあるため注意したい。その他では中東地政学リスク等、突発的な材料にも注意が必要と考える。(市場商品部/CDG)

今週の経済指標 (予定)

日付	イベント	予想
4/23(火)	(主要各国) 4月PMI製造/サービス	-
4/24(水)	(豪州) 3月CPI (前年比)	3.4%
4/25(木)	(米国) 1QGDP	2.3%
4/26(金)	(日本) 日銀会合	-
4/26(金)	(米国) 3月PCE	0.3%

USD/JPY (5年間)



(出所) Bloomberg

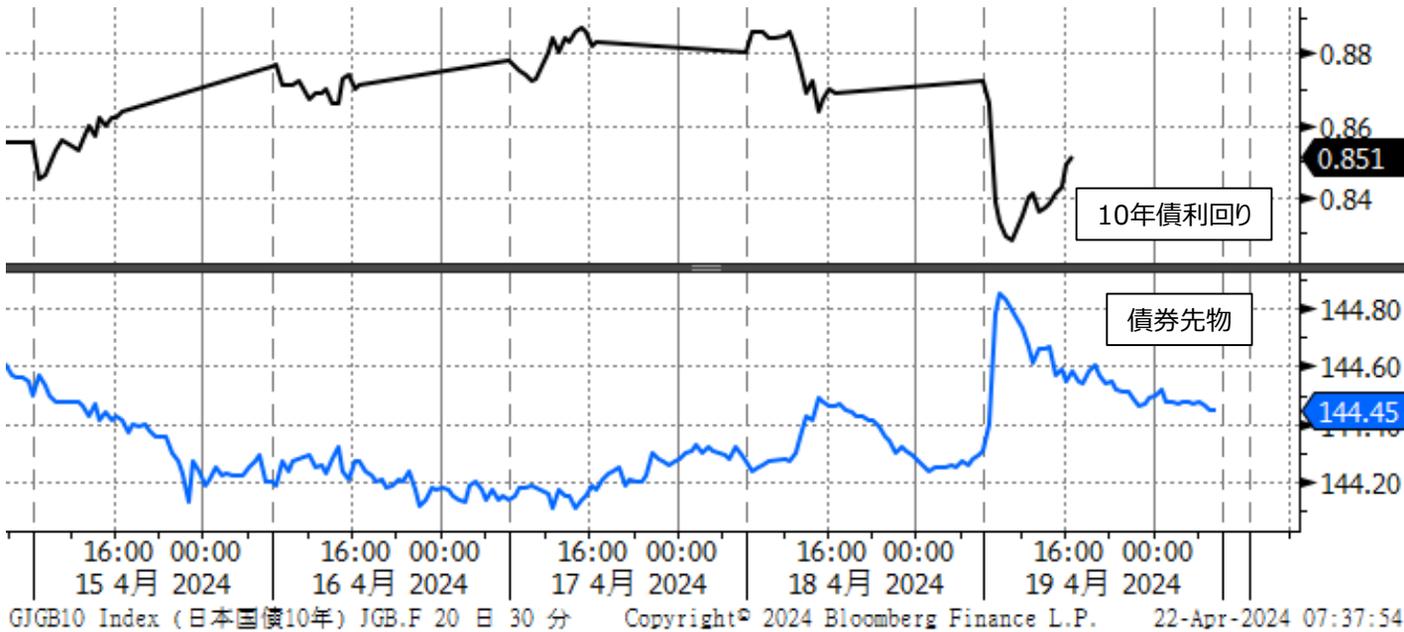
今週のレンジ予想 (USD/JPY)

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
下出康平	151.50 – 155.50	為替介入への警戒感から155円手前で膠着すると予想。日銀会合でスタンス変化が見られれば、円買い戻しなるか。
嵯峨大輝	153.00 – 156.20	中東起因のリスクオフ後退と日銀会合の政策維持期待から底堅いと予想。再度、節目である155円を試す展開か。

2. 円金利相場概況

今週は日銀金融政策決定会合にて国債の買い入れが減額されるか注目

10年国債金利と債券先物（1週間の値動き）



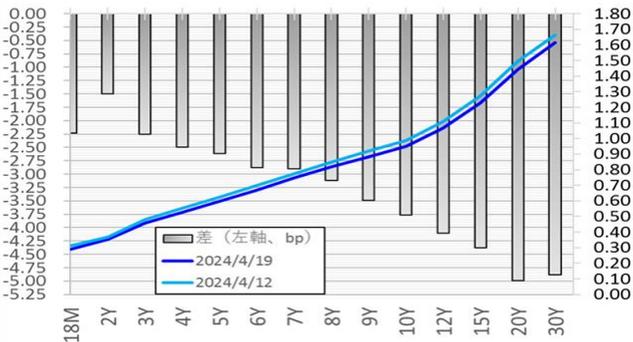
コメント

(出所) Bloomberg

先週の10年国債金利は緩やかに上昇。週初は0.84%から開始し、前週の大規模上昇の勢いを受け、週央にかけて0.88%まで上昇したが、週末には野口日銀審議委員による発言や、中東情勢の緊迫化により、0.82%まで金利低下した。週初から緩やかに上昇した10年国債金利は、18日に野口日銀審議委員の「（追加利上げは）かなり、ゆっくりになるのではないか」との発言により0.86%まで低下。19日には中東情勢が一段と緊迫化したとの報道でリスクオフによる債券買いにより0.82%まで金利低下したが、買いは次第に後退し0.85%程まで戻して終えた。今週は、金曜日の日銀金融政策決定会合にて、国債買い入れの減額と、3月のマイナス金利解除した短期金利につき追加利上げについてのメッセージがあるかに注目したい。（市場営業部/下出）

金利スワップ変化（1週間）

(%)



10年円金利スワップ推移（5年間）

(%)



(出所) Bloomberg

今週のレンジ予想（10年国債利回り）

予想者	今週のレンジ	予想のポイント
遠藤風翔	0.80% - 0.90%	日銀会合にて国債買い入れ減額が決定されれば金利上昇で反応すると予想。中東情勢にも引き続き注意したい。
小野口裕美子	0.80% - 0.90%	今回の日銀決定会合で利上げの可能性は高いものの、植田総裁の利上げスタンスを確認する上でコメントに注目。

3. 今週のトピックス 新興国経済アップデート

人口増加とともに経済成長止まらぬインド、金融政策と新政権見通し

インド準備銀行 金融政策決定会合 (MPC)

4月5日に実施されたインド準備銀行 (RBI) の金融政策決定会合 (MPC) では、市場予想通り政策金利を6.50%に据え置くと決定した。これは、2023年4月から7会合連続となる。インド準備銀行 (RBI) は、インフレ目標である4%を達成するべく、「インフレ率は依然高い水準であり、インフレ解消のためのワンマイルを乗り越える」と表明した。【図1】

●実質GDP

第三四半期の実質GDPは製造業や建設業が牽引したことで、8.4%拡大。国内経済は拡大傾向にあり、力強い成長を示している。地方の活動が活発化することに加え、都市部家計の支出増加と所得水準の改善が個人消費を強化し、サービス業はさらに成長。企業の楽観的な見通しや政府の設備投資の好転により、設備投資の見通しは明るい。しかし、地政学リスクや国際市場リスクもあるとし、インド準備銀行 (RBI) は2024~25年の実質GDP成長率を7.0%と予測している。

●消費者物価指数 (CPI)

2024年1月から2月の総合インフレ率は5.7%から5.1%に鈍化。食料インフレ率は野菜、卵、肉、魚の物価上昇で7.8%に上昇したが、燃料価格は6カ月連続でデフレ状態が続いた。コアCPIは3.4%まで低下し、財とサービスの両方がインフレ率の低下を記録。一方、モンスーンや高気温、水不足といった気候リスクは食糧価格上振れの懸念材料であるとし、注意深く監視が必要だとしてうえで、インド準備銀行 (RBI) は2024~25年のインフレ率を4.5%程度であると予想している。

●今後の金融政策

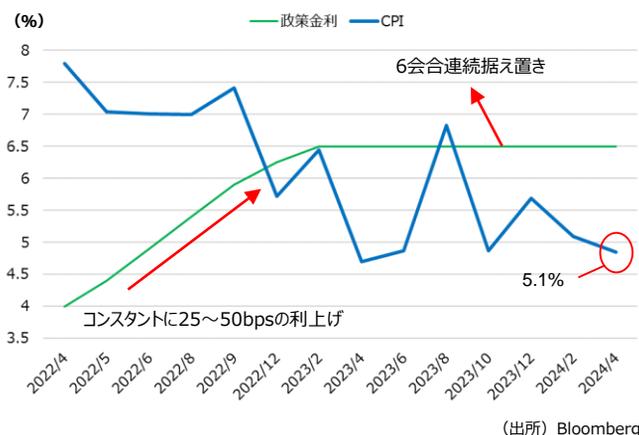
インド準備銀行 (RBI) は、持続的な物価の安定が成長の基盤を築くとし、インフレ率を徐々に4%へ近づけるよう、金融政策の舵取りを行っていく方針。足元の経済活動は堅調であることから、次回会合では利下げせず、今回同様据え置くと予想されている。

インド総選挙、19日から投票開始

19日 (金) よりインド総選挙が始まった。有権者約10億人という大規模な選挙は4/19から6/1まで7回に分けて実施され、6/4に一斉開票される。足元の経済成長が鮮明であること、国際社会での地位が高まったこと等が評価され、現職モディ政権の支持率は強固なものとなっており、再選圧勝が確実視されている。施策として雇用拡大とインフラ整備、社会福祉拡充を掲げ、政権基盤を強固にするとともに、安定政権のもとでインド経済はさらに成長していくものと予想されている。【図2】

このような状況下、インドルピー相場は対米ドルで足元じり安傾向にあるものの、今後の経済成長期待から底堅い値動きを継続。モディ政権のもと、高い経済成長率を維持した場合、インフレ鎮静化後においてもインド準備銀行 (RBI) の利下げ幅は限定的となることが予想され、インドルピーは引き続き堅調に推移するだろう。【図3】 (市場営業部/鈴木)

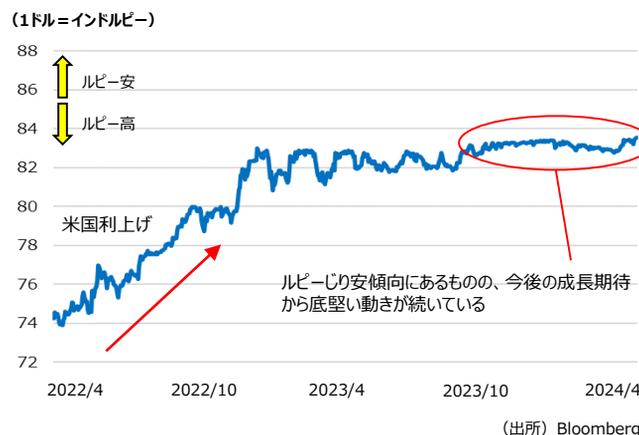
【図1】インド政策金利とCPI



【図2】インドGDP推移



【図3】インドルピー相場 (対米ドル)



ご留意事項

- ・本資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、取引の申し込みでも、取引締結の推奨でもなく、売買若しくは何らかの取引を行うことを助言したり、または勧誘したりするものではありません。
- ・本資料の内容につき、当行はその正確性及び完全性を保証するものではなく、一切の責任を負いません。ご利用に際しては、ご自身のご判断をお願いします。
- ・本資料に基づき、お客さまが投資のご判断をされた結果に基づき生じた損害・損失等については、当行は一切責任を負いません。
- ・本資料は著作物であり、著作権法により保護されております。無断で本資料の全部または一部を複製、送信、転載、譲渡および配布することはできません。
- ・本資料に掲載された各見通しは本資料作成時点での各執筆者の個人的見解に基づいており、それらは必ずしも当行の見解を反映しているとは限らず、また、予告なしに変更される場合があります。



商号：株式会社あおぞら銀行（登録金融機関 関東財務局長（登金）第8号）
加入協会：日本証券業協会、一般社団法人金融先物取引業協会、日本商品先物取引協会